

2015 年度 開発教育指導者研修 実践記録

【実践者】

授業者氏名	中澤 純一	学校名	私立 浜松学院中学校
教科・科目	総合的な学習の時間	対象学年 (人数)	3年A・B組 (30名)
実践年月日もしくは期間 (時数)	2015年4月～9月 (12時間)		

【実施概要】

1. 単元名(活動名) : To Understand the difference of cultures ～ 援助 ～					
2. 教科・領域との関連性 : 総合的な学習の時間、LHR、行事、国語	3. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
	D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
4. 単元の目標 (評価の観点を意識して設定) :					
<p>開発途上国と先進国に対する関心を高め、コミュニケーションツールを積極的に活用し、世界と自分が繋がろうと考えようとしている。【関心・意欲・態度】</p> <p>開発途上国の課題は先進国の課題であると捉え、多面的・多角的に考察し、参加型学習を通して、その過程や課題解決に向けた取り組みを適切に表現することができる。【思考・判断・表現】</p> <p>開発途上国と先進国に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、模造紙やワークシートなど成果物にまとめることができる。【技能】</p> <p>人類共通の課題や世界の現状を理解し、持続可能な社会を目指して行動変容を起こすための知識を身に付けることができる。【知識・理解】</p>					
5. 単元の 評価規準例	(ア) 関心・意欲・態度	探求学習、参加型学習、ディスカッションなどの学習活動に積極的に取り組み参画する姿勢がみられる。			
	(イ) 思考・判断・表現	参加型学習において、多面的・多角的に考え、積極的に生徒自身の考えを述べるができる。 文化祭において、来場者に積極的に本活動に関する説明することができる。			
	(ウ) 技能	探究活動において、様々な資料を活用し模造紙にまとめることができる。			
	(エ) 知識・理解	人類共通の課題や世界の現状を理解し、持続可能な社会を目指して行動変容を起こすための知識を身に付けると共に、支援に対する理解を深めることができる。			
6. 単元設定 の理由 (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p>本校は少人数制のため、各学年の生徒数は30人前後の小規模校である。特に実践者が担当する3学年は男子15名、女子14名の29名であり、2クラス編成である。(1名、年度途中で転校) 故に、各学年における総合的な学習の時間、LHR、道徳など、担任の独自性や創意工夫しだいで特色あるカリキュラムを構成することが魅力の一つでもある。そこで、本校の3学年では、To Understand the difference of culturesを大単元とし、昨年度から継続的に学習を深めている。昨年度は、アートマイルプロジェクト(文部科学省、外務省後援)をきっかけとし、ネパールの中学校であるShree Rudrepipal Secondary School(以下「ネパールの学校」と表記)との交流をする機会を得た。具体的活動として、英文による手紙交換、日本の伝統行事の絵の送付、スカイプ中継、アートマイル壁画のデザイン及び製作などが挙げられる。なお、昨年度の授業時数は54時間だった。</p> <p>昨年度の取り組みは一定の学習効果を上げ、本来は昨年度で一つの区切りをつける予定であった。しかし、今年の4月に起こったネパール地震を受け、多くの生徒からネパールの学</p>				

校や学校のあるバグルン地区、青年海外協力隊であり本校とネパールの学校の架け橋役を担ってくださっている伊藤理恵子氏を心配する声があがった。実践者である私は、国際理解教育とは、人権、環境、共生、平和などの人類共通の課題を知り、課題を人々と共に解決しながら、よりよい未来を築く力を育てる教育であると考えている。さらに、人類共通の課題を知り、気づき、考え、行動変容を促す生徒を育みたいと願っている。そこで、まさにマスメディアを通して知るネパールの情報だけで現地の現状を知るのではなく、実際に交流校や伊藤氏と連絡を取り合いながら、生徒と共にネパールに対して私たちが支援できることを考えるべく、To Understand the difference of cultures を継続学習することにした。なお、3学年では11月にバンクーバー(カナダ)でのホームステイを控えているため、開発途上国と先進国の両面から人類共通の課題を考えるべく、大単元のサブタイトルとして、～Nepal & Canada～と設定した。

なお、本単元は大単元の中から支援に関する授業実践を抽出しまとめたものである。

### 7. 展開計画 (全 12 時間)

※全体の総時間数や「本時」の記入場所は適宜変更してください。

時	ねらい	活動 ※: Active Learning の要素があれば記載	教材 ※: ワークシート活用はここに記載
1 ・ 2 LHR	ネパールに対して、私たちができることを考えよう。	【緊急ミーティング】(社会参加・市民意識・開発) ネパール大地震を受け、アートマイルを通して交流が深まった Shree Rudrepipal Secondary School に対して、どのような支援ができるのか考える。その結果、文化祭においてチャリティーカフェや募金活動を行うことに決定。	・ネパール地震に関する新聞記事(4月26日(日)朝日新聞朝刊)
3 ～ 8 総合	パネルセッションを通して、多くの人々にネパールの魅力を伝えよう。	【探究学習～ネパール編～】(文化理解) 文化祭における来場者を対象とし、ネパールの基本情報、昨年度のアートマイルの取り組み、募金についてなどをテーマに、生活班ごとで模造紙にまとめる。	・模造紙(全形) ・ネパールに関する図書資料
9 国語	ネパールの地震について、新聞を通して情報収集を行い、読み解こう。	【国語】(市民意識) ネパールの地震に関する新聞記事を各自で用意し、記事に関する感想や思いをまとめる。	・ネパールの地震に関する新聞記事 ・まとめのシート
10 LHR	ネパールで活躍する青年海外協力隊の伊藤理恵子さんに手紙を書こう。	【ネパール講座】(文化交流) ネパールの学校と本校の橋渡しをしている、伊藤氏に近況報告と地震のお見舞いを含め、手紙を書いて送る。その際、文化祭の写真やメッセージムービーも同封。	・伊藤氏からのメール文章 ・レターセット
11 ・ 12 総合 本時	日本をはじめとした先進国の国際協力の現状を知ろう。 途上国やその地域に対し、ものやお金を贈る援助について考え、援助が現地に与える影響について理解を深めよう。	【国際理解講座①】(開発・平和・市民意識) 『「援助」する前に考えよう(第I部 ワーク1 一枚の看板・ワークII 再びバーン村へ)』を中心に援助とは何か、ネパールに対する緊急支援はどのような意味が現地にあったのか考えた後、日本と世界の援助の軌跡をふりかえるため『国際協力ふりかえり年表』を活用する	・JICA 機関誌 Mundi 2014年1月号(国際協力ふりかえり年表) ・開発教育協会 「援助」する前に考えよう

備考	ネパールについて、文化祭の来場者に伝えよう。	【文化祭 (6/5 午前、6/6 終日)】 (社会参加・市民意識・開発) チャリティーカフェ (ネパールのラッシーをはじめとした飲み物やお菓子の実演販売)、募金箱の設置、班ごとにまとめた模造紙の展示、昨年度制作したアートマイルの展示などを行った。また、ネパールの学校にむけて作製したメッセージムービーの上映も行った。 収益金：29500円	<ul style="list-style-type: none"> <li>チャリティーカフェ セット</li> <li>ネパール調べ模造紙</li> <li>教室デコレーション</li> <li>ネパールに関する新聞記事シート</li> <li>アートマイル作品</li> <li>募金箱 など</li> </ul>
備考	バグルン地区防災プロジェクト	文化祭での収益金を運営費にあて、ネパールバグルン地区において、防災プロジェクトを開催予定。青年海外協力隊の伊藤理恵子氏が中心となって、JICA ネパール事務所と日本工営の協力のもと、367人収容できるパーティーホールで、ステージ企画や映像鑑賞を行う。その中で、ネパールの学校にむけて作製した本校のメッセージムービーの上映も予定されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化祭収益金：29500円</li> <li>※ 8月末に国際送金済み</li> </ul>

8. 本時の展開

※過程の網掛け部分は適宜変更下さい。

過程・時間	学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
<p><b>導入</b></p> <p>(10分)</p> <p><b>展開</b></p>	<p>A ネパールの伊藤さんからの手紙</p> <p>① 文化祭で行ったチャリティーカフェ及び募金で集めた29500円を8月末に国際送金したことを伝える。</p> <p>② 青年海外協力隊隊員の伊藤理恵子さんのメールを紹介する。</p> <p>B 「援助」する前に考えよう～一枚の看板～</p> <p>① 生徒に今からタイ旅行に行くことを伝え、タイの概要について説明する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークショップのため、生活班 (5人×6班) で座る。</li> <li>国際送金を知らない生徒もいるので、簡単に説明する。</li> <li>生徒自身の手で集めた寄付金が、交流校のあるバグルン地区の人々のために役立つことを確認する。</li> <li>近々の伊藤さんのメールから防災プロジェクトの概要を知る。</li> <li>伊藤さんのメールからネパールにおける政治情勢の混乱について触れる。</li> <li>パワーポイントでタイの位置、首都について示す。</li> <li>トレッキング自体、生徒に馴染</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マイク</li> <li>プロジェクター</li> <li>PC</li> <li>キッチンタイマー</li> <li>マジック</li> <li>タイ POP の CD</li> <li>開発教育協会 「援助」する前に考えよう</li> <li>ワークシート</li> <li>伊藤さんからのメールのコピー</li> </ul>

<p>② タイに着いたところで、トレッキングに出かけることを伝える。</p> <p>③ トレッキングのスライドショーを見る。</p> <p>③ 一枚の看板(資料)を読む。</p> <p>④ 各自でバーン村に10ドル寄付するか否か考える。</p> <p>⑤ 生活班ごとの寄付金の総額を計算する。</p> <p>⑥ バーン村、バーン小学校、アイ子について知る。</p> <p>⑦ 各自でアイ子の活動について賛成するか否か考え、その理由も考える。</p> <p>⑧ 生活班及び全体で共有をする。</p> <p>C 「援助」する前に考えよう～ 再びバーン村へ～</p> <p>① 帰国後のスライドショーを見る。</p> <p>② バーン村再訪の寸劇を鑑賞する。</p> <p>③ 寸劇終了後、生徒一人ひとりが村人の役割カードを読み上げる。</p>	<p>みがない言葉なので、説明を加える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師が状況カードを読み上げながら、パワーポイントのスライドショーを使用しながら紙芝居形式で話を進めていく。</li> <li>・ スライドショーの一枚の看板を教師が読み上げる。</li> </ul> <p>ワークシートの Q1 に寄付するか寄付しないかどちらかに○で囲む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 班長に各班、総額はいくらになったか発表させ、黒板に各班の総額を記入する。</li> <li>・ スライドショーを用いて、バーン村、バーン小学校、アイ子、それぞれの状況を説明する。</li> <li>・ 生活班ごとにそれぞれの説明カードも配布する。</li> <li>・ ワークシートの Q2 に賛成・やや賛成・やや反対・反対のどちらかに○で囲み、その理由も記入する。</li> <li>・ 生活班で各自の⑦で考えたアイ子の活動に賛成か否か、またその理由を話し合う。</li> <li>・ 全体共有として、各班1人発表をする。</li> </ul> <p>・ 教師が状況カードを読み上げながら、パワーポイントのスライドショーを使用しながら紙芝居形式で話を進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒に村人カードを配布する。</li> <li>・ 教員2名が1人4役を担い、寸劇を行う。</li> <li>・ 村には様々な立場の人がいて、それぞれの問題をもっていることに気づく。</li> <li>・ カード式分類法を用いて、バー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 状況カード</li> <li>・ バーン村、バーン小学校、アイ子の説明カード</li> </ul>
---	--	--

(80分)	<p>④ バーン村にどのような支援が必要か考える。</p> <p>D 援助するヒト・団体・組織</p> <p>① 援助する側は、どのような立場があるのか考える。</p> <p>② 日本の国際協力の歴史について考える。</p>	<p>ン村にどのような支援が必要か生活班ごとに考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各班が成果物が完成した後、班ごとに発表し共有する。</li> <li>援助する側にはどんな立場があるか発表させる。</li> <li>国際協力ふりかえり年表を配布し、生活班で相談し ( ) に入る語句をキーワードから選んで記入する。</li> <li>国際協力ふりかえり年表の答え合わせをする。</li> <li>国際協力ふりかえり年表のキーワードの中にもあった MDG s に関する Mundi のコピーを配布する。</li> <li>ワークシートにワークショップ全体を通して気づいたこと、考えたことを記入させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>付箋</li> <li>模造紙</li> <li>Mundi 2014 年 1 月号 (国際協力ふりかえり年表)</li> <li>JICA 機関誌 Mundi 2014 年 4 月号 p.4-7 (特集ミレニアム開発目標 (MDG s))</li> </ul>
(10分)	<p>まとめ</p> <p>E ミレニアム開発目標 (MDG s) ってなんだろう？</p> <p>F ワークショップをふりかえる。</p>		

9. 本時の評価

	評価基準	評価方法
関心・意欲・態度	一枚の看板～、再びバーン村へ、援助するヒト・団体・組織などの様々なアクティビティに積極的に参加することができる。	教師の観察
思考・判断・表現	支援の方法について多面的・多角的に考え、積極的に自身の考えを述べることができる。	ワークシート、成果物 (カード式分類法)、教師の観察
技能	援助に関する考えをグループ内や全体で、分かりやすくさまざまな方法で述べることができる。	ワークシート、成果物、教師の観察
知識・理解	援助にはお金を送るだけでなく、多種多様な援助の仕方があることを理解するとともに、私たちができる援助について考えることができる。	ワークシート、教師の観察

【自己評価】

<p>10. 苦労した点</p>	<p>ネパール大地震を受け、アートマイルを通して交流が深まった Shree Rudrepipal Secondary School に対して、どのような支援ができるのか考えた結果、文化祭においてチャリティーカフェや募金活動を行った。しかし、生徒の中で、支援金を集めたことで満足感を得て、行動が完結してしまっている点があったため、今一度、援助について考えるため「援助」する前に考えようを取り入れた。</p> <p>また、本校の授業に関する取り組みは、ネパールで活動する青年海外協力隊の伊藤氏にも連絡をし、情報提供なども頂いていたが、地震の被災や政治不安な情勢から連絡が取りにくいこともあった。</p>
<p>11. 改善点</p>	<p>「援助」する前に考えようのワークショップは、本来ならネパールのバグルン地区に国際送金する前に行き、もっと現地とも情報交換を行った上で実際の援助を行った方が良かったかもしれない。しかし、今回は緊急支援の目的で文化祭での義援金を送ったこともあり、これも一つの援助の仕方であると生徒自身が理解できれば目的は達成できたと考える。</p>
<p>12. 成果が出た点</p>	<p>ネパールの大地震に知り、考え、気づくと言ったプロセスに留まることなく、生徒自身が自発的にネパールの学校及びバグルン地区に対して、どのような支援が出来るか考え行動に移したことで、本ワークショップは実体験に基づき、理解を深めることが出来た。</p>
<p>13. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)</p>	<p>【文化祭】【探究学習～ネパール編～】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>教室前掲示</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>アートマイル壁画の展示</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>アートマイルの説明</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ネパールについてのパネルセッション</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;">   </div>

NIE 成果物



ネパールの中学生からの手紙②

ネパールの中学生からの手紙①



チャリティーカフェ①



チャリティーカフェと募金箱

文化祭では、探求学習でまとめた模造紙や国語で取り組んだネパールの地震に関する新聞記事の要約及び感想、アートマイル壁画などを展示した。その結果、昨年度及び今年度の取り組みの成果を多くの来場者に発表する機会となった。

【国際理解講座】

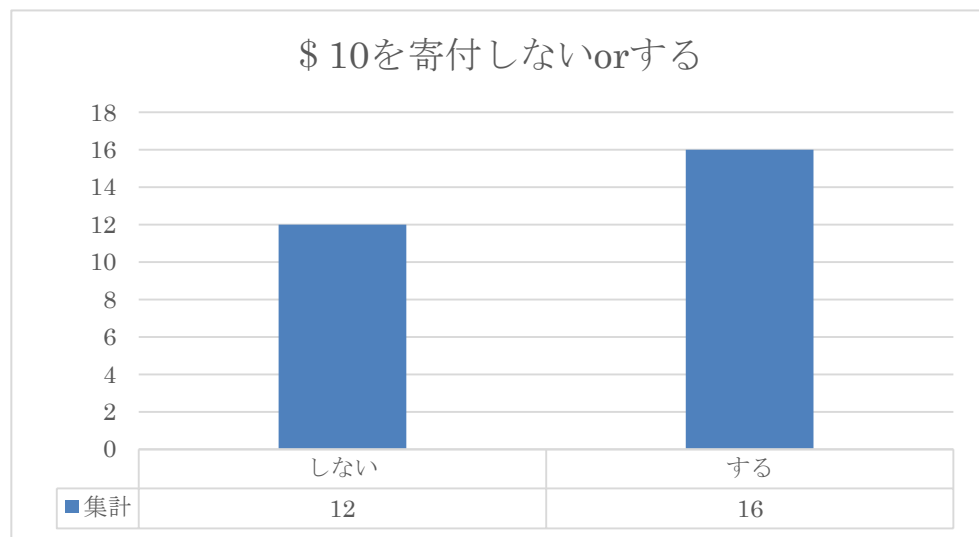
スライドショーの一枚の看板を教師が読み上げ、ワークシートの Q1 に寄付するか寄付しないかどちらか記入させたところ、グラフ 1 のような結果が得られた。寄付すると答えた生徒は 28 名中、16 名で 57%、寄付しないと答えた生徒は、12 名で 43% だった。

次に、スライドショーを用いて、バーン村、バーン小学校、アイ子、それぞれの状況を説明し、生活班ごとにそれぞれの説明カードも配布した。その後、ワークシートの Q2 に賛成・やや賛成・やや反対・反対のどちらかを選択させたところ、グラフ 2 のような結果が得られた。やや賛成と答えた生徒は 28 名中、23 名で 82%、賛成が 4 名で 14%、反対が 1 名で 4% だった。

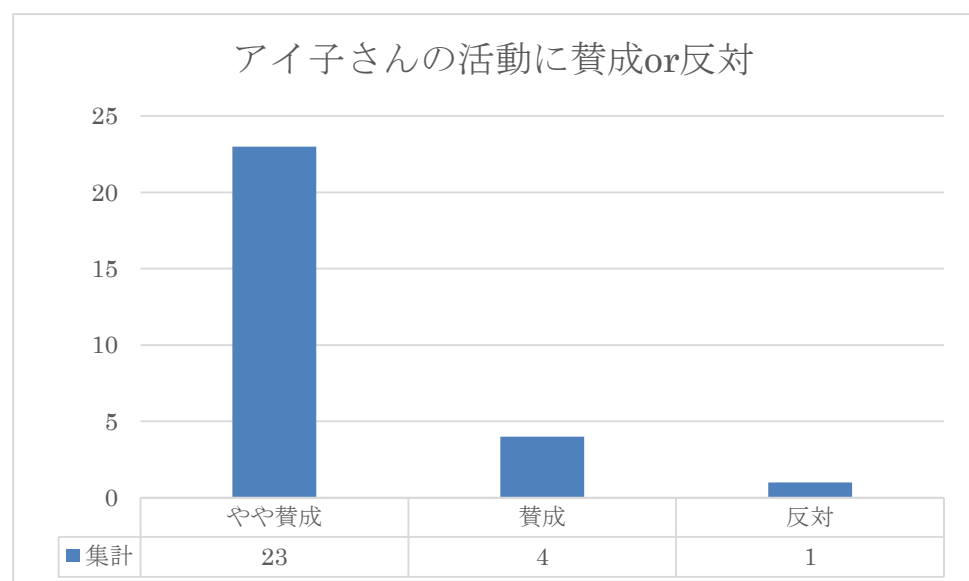
また、やや賛成の理由として「お金がなくて助けてあげようという気持ちは良いことだから。しかし、いくら集めたいのかを書いてあげれば、もっと援助でき

と思う。」「母国ではないのに、その国の小さな学校のために、活動をしているのは、とても良いことだと思うから。アイ子という名前がかわいかった。思うことは簡単だけど、行動するのは難しいから。」「困っている人にはなるべく助けてあげたいと思う。気持ちはとても大切だと思うから。とても良いことだと思うから。」などが挙げられる。さらに賛成の理由として「困った人々に救いの手をさしのべてあげることは良いことだと思ったから。人々に優しくしてあげることも良いことだと思った。」「アイ子さんはタイのバーン小学校を助けるための活動をしているから。助けるための活動は良いことだから。助けるために、募金活動を実行しているから良いことだと思う。」が挙げられた。(詳細は、別紙参照)

グラフ 1



グラフ 2



ワークショップ終了後、全体の感想をワークシートに記入させたところ、「今日はタイの小さな村に援助をするという話だった。それを頑張っていたのはなんと日本人のアイ子さんという人だった。困っている人のために自分が頑張れると



	<p>いうことは、とてもすばらしいと思った。アイ子さんは優しい人だと思った。」「ワークショップをやって、貧しい村にお金をあげる以外に色々なことをあげれることが分かった。」「今日のワークショップでは、貧しい村にどのような援助が出来るのかを考えた。そのようなことを考える中で、自分に出来る事もたくさんあったので、これからできる時があったら積極的に援助したい。」などと言った意見が挙げられた。(詳細は、別紙参照)</p>
<p>14. 備考 (授業者による自由記述)</p>	<p>本実践は、3 学年所属の教員が一丸となって取り組んだ。実践者である私は社会科の教員であり、国際理解教育を専門としていることからカリキュラムの構成及びコーディネート、参加型学習の実践、英語の教員はネパールの現地との連絡調整、生徒への英文指導、国語の教員は新聞記事を活用した指導など、それぞれの教員の持ち味を生かした取り組みを実践することができた。</p> <p>さらに、交流校である <b>Shree Rudrepipal Secondary School</b> と青年海外協力隊の伊藤理恵子氏の協力があってこそ、発展的な授業展開ができていると確信している。</p>

参考資料 :

- ・ Find the Link どうなってるの？世界と日本 p16-17 (世界をサポートする日本① データでみる、国際協力のいま)
- ・ JICA 機関誌 Mundi 2014 年 1 月号 p.6-7 (国際協力ふりかえり年表)
- ・ JICA 機関誌 Mundi 2014 年 4 月号 p.4-7 (特集ミレニアム開発目標 (MDGs))
- ・ DEAR 開発教育協会 「援助」する前に考えよう～参加型開発と PLA がわかる本～ p6-17 (第 I 部 ワーク 1 一枚の看板)
- ・ ジャパンアートマイル 2014 年度国際共同学習実践報告書 アートマイル国際交流壁画制作プロジェクト p.90-93